

もの言う牧師のエッセー 第21話

「カーネーション高視聴率」

私の地元でもある大阪府は岸和田市出身の著名ファッションデザイナーとして活躍するコシノヒロコ・ジュンコ・ミチコの「コシノ3姉妹」を育て上げ、2006年に他界した小篠綾子の生涯を、実話に基づくフィクションストーリーにして描かれたNHKの朝ドラ「カーネーション」が、同シリーズでは過去8年間で最高の視聴率を記録し、3月31日に放送を終了した。

テレビ離れが進む中、しかも朝の時間帯で20%近い視聴率（関西19.6、関東19.1）は久々のヒットだ。私も20話あたりを少し見たが、今や“全国区”となった“だんじり”が「ソーリヤ！ソーリヤ！」という勇壮な掛け声と共に疾走するシーンやガラの悪い「泉州弁」（南大阪の方言）が横溢する様は実に愉快であった。が、この番組のヒットの理由は他に
ある。

民放でドラマ制作経験を持つ同志社女子大の影山貴彦教授（メディア論）は、「高視聴率の大きな理由は渡辺あやさんの脚本の素晴らしさ。ドラマは脚本に尽きる。」と言い切っている。そう言えば、かつてスティーブン・スピルバーグも「映画は脚本が全て」と言っていた。スペシャル・エフェクトや人気俳優の熱演は二の次なのである。

実は聖書の

ヘブル人への手紙 2章 10節には有名な「the author of their salvation」:NIV 他

というキリストについての説明が書いてある。読んで字のごとく、“彼ら”、つまり人類の「救いの作者・創始者」である。映画やドラマが、脚本がなければ“始まらない”様に、我々一人ひとりの人生の救いと祝福もメシア・キリストがいなければ始まらない。名脚本家であるイエス・キリストによって、あなたの人生の“素晴らしい脚本”を書いていただければいかがだろうか。

2012-4-18

NHKの今までの
一番好きなテレビ番組

カーネーション



制作 尾野真知子
2011年10月12日 - 2012年10月11日
NHK総合テレビ
NHK-BS1
NHK-BSプレミアム